

令和6年度 文教交流委員会 行政視察報告書



東かがわ市温水プール「JOYFIT HAPPY BASE」

- 期 間** 令和6年10月23日（水）～10月25日（金）
- 視察先** 香川県東かがわ市
【東かがわ市温水プール「JOYFIT HAPPY BASE」について】
香川県坂出市
【放課後児童クラブの運営について】
岡山県倉敷市
【倉敷市の観光振興プログラムについて】
- 参加者** 議員 委員長 中村眞一、副委員長 小林孝幸、
鈴木規子、牧野次郎、神谷雅章、本郷照代、藤井基夫
随行 子育て支援課 本田尚代
議会事務局 小早川明子

東かがわ市温水プール「JOYFIT HAPPY BASE」について

【日時】令和6年10月23日 13時30分～15時20分

【場所】東かがわ市温水プール「JOYFIT HAPPY BASE」

1. 視察地の概要

東かがわ市は、香川県の東端に位置し、地場産業として手袋生産、和三盆糖などの伝統産業のほかに、はまち養殖の発祥地として名を馳せている。平成15年4月に大川郡引田町・白鳥町・大内町が合併及び市制施行し東かがわ市となった。他自治体同様に高い高齢化率、人口減に直面している。そこで力を入れているのが、交流人口の増加策である。移住ではなく、他市から公共施設利用者を増やすという施策を通じて市の魅力を高めようというものである。

人口：28,279人（令和2年国勢調査）

面積：152.86 km²



東かがわ市温水プール
「JOYFIT HAPPY BASE」にて

2. 調査事項の概要

2024年7月にオープンしたばかりの「東かがわ市温水プール JOYFIT HAPPY BASE」は、スポーツやレクリエーションを楽しむことができる総合施設となっており、讃岐白鳥神社の特徴的な屋根形状、瀬戸内海の波をも連想させる外観が目を引いている。館内はプール・ジム・スタジオ・温浴施設・多目的ホールやイベント広場・公園広場が一体となっており、スポーツを中心に子どもからお年寄りまで誰もが心地よく過ごせる、新しい市民の場を目指す、という謳い文句に沿った内容を提供している。エントランスホールや建物前の広場が見渡せるコミュニティスペースなどは、木材が潤沢に使用されており、国の天然記念物に指定されている東かがわ市鹿浦越（かぶらごし）の「ランプロファイヤ岩脈」の美しい縞模様が施設のコンクリート壁面に模して張られているのと相まって、格別に温かみのある、ウエルカムの雰囲気を醸し出していた。以下、施設ごとの概要と調査事項の要点である。

【施設概要】

（1）プールエリア

25メートルの温水プール、幼児用の小プール、歩行用プールを備えている。その他、ジャグジー、大人数の利用に耐えうる広さのプールサイド、トイレ、洗体・シャワー室、更衣室、監視室、救護室が整備されている。注目すべきは、市が行っている介護予防事業の一環で、要支援1・2の方が利用できるとする歩行用プールである。



水中で歩行することにより腰への負荷を軽減しつつ、運動量を確保するものである。令和7年度以降に本格的に実施する予定とのこと。一般用プールは小・中学校の水泳授業にも対応しており、市内全学校がスクールバスを利用して通ってきている。現在自校のプールを利用している学校については、今後修繕が必要となった段階で、この温水プールに移行することになっている。水泳指導を担当しているのは、株式会社ヤマウチで、フィットネス事業を専門とする企業である。一般向けにスイミング教室も開催している。

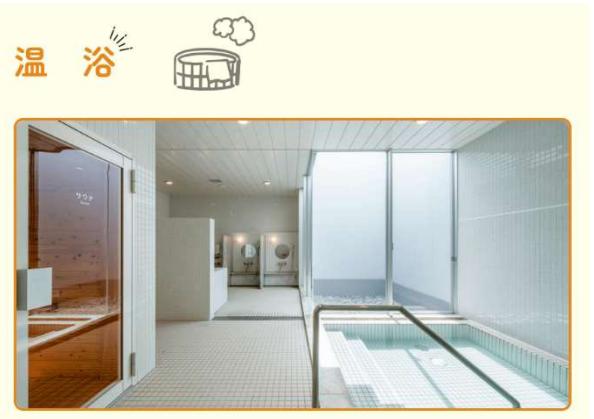


(2) 共用エリア

受付・発券・会議室など。



木の温もりを感じる内観



その他の設備



観覧スペース



リフレッシュ
スペース



会議室



ベビールーム

(3) トレーニングエリア

フィットネス企業として、全国展開している運営業者、株式会社ヤマウチオリジナルによる豊富な種類の有酸素マシンや筋トレマシンを完備し、インストラクターがあらゆるフィットネスニーズの対応している。中でも介護予防マシンは、負荷が小さく、高齢者でも取り組みやすい機材であった。トレーニングジムの隣にあるスタジオでは、ヨガやボディメンテナンスなどの健康系プログラムからダンス・ステップ・有酸素運動まで豊富なレッスンプログラムが用意されており、まさに子どもからお年寄りまでそれぞれに楽しめるような工夫がなされている。時勢に合わせ、オンラインレッスンもできる。



3. 主な質疑とその回答

問 「JOYFIT HAPPY BASE」というネーミングに込められた思いは、どのようなか。

答 公募によるネーミングライツにより愛称を決定した。

「JOYFIT」は、株式会社ヤマウチ様が展開しているスポーツジムのブランド名で「ENJOY FITNESS」からの造語、「HAPPY BASE」は、東かがわ市温水プールを、この地域での暮らし、地域の課題を見つめ、解決方法を常に考える学びの基地・拠点と考え、このプール施設のみならず屋外芝生エリアを用いた様々なイベント等を実施することで、地域の皆さまに一つでも多くのハッピーを届けるBASE（拠点）となるイメージでネーミングをした。



東かがわ市議会議長あいさつの様子

問 温水プール建設基本構想を策定するにあたって、関係団体・近隣地域・一般市民などとの協議は行ったか。その場合、協議の内容・回数など詳細はどのようなか。

答 基本構想では、関係団体・近隣地域・一般市民などとは協議は行っていない。

問 事業方式を選定するにあたり様々に協議されたことと推察するが、最終的にDBO方式を選定するに至った決定的要因はどのようなか。

答 基本構想において、DB又はDBO方式を候補として事業化を進めることとした。その後のサウンディング調査時の意見で、本市のような小規模な市でもPFIやDBO方式でも可能とのご意見もあり、最終的には基本計画において手法ごとにおける財政負担額を算出し、DBO方式に決定した。

【参考】

- ・DB方式：「デザイン・ビルド」の略で、市が資金を調達し、設計と施工を一括発注する方式。
- ・DBO方式：市が資金調達を負担し、設計・建設・運営を民間に委託する方式。
- ・PFI方式：民間の資金と経営能力・技術力（ノウハウ）を活用し、公共施設の設計・建設・改修・更新や維持管理・運営行う公共事業の手法。

問 事業者を選定するにあたり、公募型プロポーザル方式を採用したが、良かった点、反省すべき点等はどのようなか。

答 良かった点は、価格だけでなく、将来的なランニングコストを削減するための提案を含め、総合的な観点で事業者からの提案があり、その中から選定できたことや、市が考え付かないようなデザインが提案されたことや、独自のノウハウを伺えたことにより、事業を進める上で参考になる部分があったこと。

反省すべき点は、7グループもの応募があったことから、プレゼンテーションの実施も含め事業者選定に時間を費やしたことから、応募多数の場合に2段階選定することを含めて募集すべきも検討が必要であったと考える。

問 介護予防水中トレーニング事業の連携先関係等の詳細、また歩行者プールの利用状況はどのようなか。

答 介護予防事業は、本市長寿保健課との委託事業として実施予定としている。引田温水プールで事業を実施していたが、コロナ禍により事業を休止し、新温水プールで事業を再開することとしているが、本年度は、年明けに事業を実施し、内容を精査した上で、次年度以降に本格的に実施する予定である。

歩行用プールは、現在、一般利用者が歩行運動をする場合に利用している。

問 小・中学校授業との連携で小・中学校の水泳授業に適した施設整備について、どのように考えたか。また、授業カリキュラムはどのようなか。

答 学校水泳授業を別委託事業として実施することを条件として、着替え場所や準備運動などの体操スペース、一般利用者との利用方法（専用又は併用）などは事業者提案に任せ、施設整備の提案内容を基に協議しながら整備を実施した。

授業カリキュラムは、学校と事業者間で1回当たり

の時間数やどのように進めるかなどの協議を行い、教育総務課が協議内容を踏まえた委託業務の契約を行っている。授業カリキュラムは指導要領に沿った内容としている。



委員長あいさつの様子

問 バリアフリーやユニバーサルデザイン等にも配慮した施設整備とのことだが、どのような点に気をつけて整備したか。また、プールオープン後、利用者の声はどのようなか。

答 基本計画策定時に障がい施設関係者や外部の委員からいただいたご意見を基本計画に反映し、誰もが利用し易い施設となるようにバリアフリーやユニバーサルデザイン等に配慮することを要求水準に加えた内容とした。また、設計や建設の協議時にも、市と運営事業者双方の意見を取り入れながら整備を行っている。

プールオープン後の利用者の声は、全体的な部分でのお褒めの言葉を頂くことはあるが、バリアフリーやユニバーサルデザイン等への個別のご意見は伺っていない。

問 維持管理費用などの縮減にも取り組まれたとのことだが、何をはじめに取りかかったのか。また、想定通りにはいかなかった点はあったか。

答 公募型プロポーザル方式の上限額は、通常は設計、施工、維持管理運営を含め事業全体での上限額を設定するが、本市では、設計から施工までの施設整備費と維持管理運営費それぞれで上限額を設定することとし、ランニングコストを抑えるように求めた。

想定通りに行かなかった点は、コロナ禍での公募開始となったこと、また、募集締め切り時にはロシアがウクライナ侵攻を開始したことに伴い、想定外の物価上昇となったこと。

問 休憩や談話などができる交流サロンのような利用など、施設の多様性を検討されたとのことだが、コミュニティスペースはどのような使われ方を想定して設置整備をされたか。また、これまでの利用状況はどのようなか。

答 公募時は、誰もが気軽に集える場所ができればとのイメージで募集したが、要求水準に明確な交流サロンのような記載がなかったことや、施設全体が有料施設であることから、実際には建物内は送迎の待機場所としてとしての利用が主となっている。

一方、施設外においては地元コミュニティ協議会の多目的ホールと本プール施設の間にイベント広場を設け、オープニングイベントでも利用され、賑わったところである。今後は、このイベント広場を有効に活用し、様々なイベントや地域の方に利用していただくとともに、隣接する地元コミュニティ協議会と連携しながら、地域の拠点として賑わいの創出を期待している。

問 建設費について、11 億 8,000 万円となっているが、国・県からの補助金の活用についてはどのようなか。

答 合併特例債事業を活用している。(令和 5 年が最終年)

4. 所見・西尾市政への反映に向けた課題

- ・「東かがわ市社会体育施設等マネジメント」（平成 28 年度策定）にのっとり、新施設整備を進めてきた東かがわ市であるが、既存プールの引田温水プールを実際に設置場所を変えて整備するに至るまでには議会对応を含め多くのハードルがあったと思う。しかし、人口減を眼前に移住などの策ではなく、市外からの交流人口を増やすという方策に比重を置き、特に健康づくり推進の観点から市民プールを整備するという考えは、多くの市民の理解を得られることになった。



視察中の様子

プールには、水中歩行ができるレーンや障がいのある方が、車いすのまま利用できるような配慮されている。また近年の全国的傾向である小・中学校の水泳授業にも適した施設整備となっており、指導者は運営を受託する民間事業者が担当している。そして、プールのみならず、トレーニング器具を使つてのジム機能も導入されており、視察時にもひっきりなしに訪れる利用者がそれぞれ目当ての機能を享受していた。加えて、温浴施設も整備されているため、それ目的に訪れる人も多いと聞いた。とにかく、プール利用を基点として様々な運動・休憩・談話なども含めたコミュニティスペースとして利用されることを目途とした所期の目的を果たすことができていると実感できた。介護予防事業をこのプールで行っている事にも注目したい。プール内での歩き方の改善・有酸素運動・バランストレーニング・全身運動などを要支援 1・2 までの方が利用できるというものである。まさに介護予防の最たるものと会得した。事業方式については、検討の結果 P F I 方式より D B O 方式の方が資金調達・事業完了までの負担・事業費用の支払い方式・地元企業の参画難易度・大手企業の参画意欲など 5 つの観点から適しているとの決断が下された。設計段階から効果的な運営や維持管理に配慮した計画を行える設計・建設・一括発注が適切であるとの考えである。事業者は公募型プロポーザル方式により決められたが、事前に「サウンディング調査」が行われ、民間異業者等との対話を通じて、自由かつ実現可能なアイデアを広く聴衆する手段も取られている。

本市においても、新たな市民プール建設が計画され、このサウンディング調査に入るとの報告を受けており、大いに期待しているところである。時代とともに公共施設の多機能化はますます求められている。当市における新市民プールがそのような時代、特に市民のニーズに真に合致することを強く望むものである。

- ・市民の健康増進つなげようと温水プールの建設を進められ、7 コースのプールをはじめ歩行者専用プール・障害者用多目的プールなどが整備されていた。

利用料金体制においても市内外問わず一般 550 円で利用しやすい施設と感じた。

本事業を円滑に進めるためにサウンディング型市場調査を行っており、民間事業者等との対話を通じて、自由かつ実現可能なアイデアを広く取り入れ、より良い施設整備になったのではないと思う。本市においても、学校水泳授業、介護予防、健康増進などについて、施設をどのように活用していくのか事前に関係者との協議・調整をしっかりと行わなければならないと思った。

駐車場についても 190 台収容でき、今後の当市のプール建設にも大きく参考となった。

- ・東かがわ市は「健康で活力あふれる生活環境・ライフステージに応じた健康づくりのため、多世代が気軽に利用できる施設で「運動や健康づくり」、「水泳教室等」、「プール開放」など、バリアフリーやユニバーサルデザイン等にも配慮した施設とすることをコンセプトにし、子どもから高齢者まで幅広い世代に利用されており、稼働日は約 300 日で年間約 3 万 7 千人程度の利用者となっている。

主に子どもや成人の水泳教室、介護予防事業や小・中学校水泳授業などに利用されており、事業化のスピード、建設コスト縮減への期待度、管理・運営がしやすい施設建設への期待など比較検討の上、民間事業者のノウハウによる効果的な運営が期待できる「DBO方式」である。

当市においても学校プールの老朽化により複数校が利用できる温水プールは必要であり、方式についても今後検討することが必要だが、市長はPFI事業を中止するために、市民が望んでいない施設として、要望が高かった温水プールの建設を反故にした経緯から、市民説明が必要とされる。

- ・市内の温水プールの老朽化により、建て替えを検討しており、今年の7月1日に新たに温水プールを開館した。このプールを使って、地元6つの小・中学校がプールの授業を行っている。本市においても、各学校プールの老朽化が進んでおり、令和5年度から西尾ドルフィンスイミングクラブとホワイトウェイブ21の温水プールで試験的に水泳授業を行っている。そして、西尾市にも新たに温水プールの建設計画がある。東かがわ市は、学校水泳授業と一般客の集客を民間企業の力を借りながら、官民連携でスタートさせた。本市においても学ぶべきところは多く、良いところを担当課へ提案していきたい。



躍動感のあるウェーブルーフ

- ・東かがわ市も、引田、白鳥、大内の3町の合併によるといい、課題は旧町時代の施設の老朽化である。施設の統廃合においては、それらを利用していた市全体の住民のニーズとの地域的なある種の既得権にどれだけ応えられるかではないか。理解を得るには、十二分な説明でありコミュニケーションの確保しかないと思われる。財政力指数0.34の自治体には重い課題である。

プールについては、やはり、旧町が保持していたところに復活させたものであり、統廃合された小学校の跡地は市街地にも近い点が評価されたようだ。ただ、建設に至るまでは、前市長や議会議長老たちの良くも悪くも係わりによる紆余曲折があったと聞かされた。いずれも同じである。DBO方式が採用されているが、PFIとの比較が示されており「民間資金の返済には金利がかかり、整備費の総計はPFI事業の方が高額となること。リスク負担やSPC組成などに時間と費用がかかる」等々、評価が低かった。本市がPFI契約を進めていた時の評価と比較し興味深かった。

3校が平日午前中に利用しているが、送迎にはスクールバスが使える点が大きく、本市と比べると極めて有利である。しかし、施設自体が全般的に小規模であり、子どもたちの更衣室は会議

室の代用で、ボードの仕切りもなかった。低学年ならともかく配慮の必要性を感じた。

低学年用プールは小さく、残念ながら「芋の子を洗う状態」が想像された。

指定管理者、株式会社ヤマウチの本社は高松市と聞く。市の担当者からは廉価で良いサービスと称えられていたが、施設内で働く人に聴くと「22 人のうち常勤の社員は3人だけで、後はインストラクターも含め全員アルバイト。社員を増やして欲しいが認めてもらえない。」と嘆きが聞かれた。

1 クラス 40 人にインストラクター1名と教員もプールに入り、2名体制の授業だった。試験があるのだから、評価する教員が入水するのは当然との説明だったがうなずける。本市では教員のプールサイド観察が多いようだが、入水も検討する必要があるのではないかと感じた。

- ・施設としては、デザインで特徴的なものとなっていることを感じた。また、住民から大きな反対運動や建設に否定的な声も多かったようである。財源は、合併特例事業を活用しているということであった。合併特例事業は合併により必要な事業に使われるものと思っていたので、広大な市域の一地域に集中する事業に合併特例債というものはどうなのか疑問に感じた。また、水泳授業では、教師もプールに入ってもらっているとのことだが、実際には、事業者の指導者は1人しかつかないようなので不安を感じた。また、児童生徒の入館入り口は一般利用者とは別になっているのは理解できるが、更衣室やプール前室のつくりは、スペースも狭く、男女の間仕切りも簡易でプライバシーもなければ、ロッカーもないありさまで問題に感じた。

- ・今回伺った東かがわ市温水プールは、学校跡地に建設されている。そのため旧学校体育館はコミュニティ施設として利用されている。プール棟の外観は斬新で市では考えつかないようなデザインで、バリアフリーやユニバーサルデザインにも配慮した誰でも利用し易い施設だと感じた。プール以外のジムや入浴施設も最新の設備・機器が完備されていて、利用者の満足度も高いだろうと思われる。

管理運営は民間に委託しているが、選定方法に市の工夫が見られた。公募型プロポーザル方式の上限額は、通常は設計、施工、維持管理運営を含め事業全体での上限額を設定するが、設計から施工までの施設整備費と維持管理運営費のそれぞれで上限額を設定することによりランニングコストが抑えられたとのことであった。本市においても今後、温水プール、生涯学習センターや校舎の建替えなどが予定されている。近年では、物価、人件費などの高騰による影響で、入札不成立や追加補正などが多く見受けられる。最小の経費で最大の効果を上げることができるよう、しっかりと事前調査や研究などをして事業者の選定をする必要がある。

放課後児童クラブの運営について

【日時】令和6年10月24日 9時30分～11時10分

【場所】坂出市役所

1. 視察地の概要

坂出市は、香川県のほぼ中央部に位置し、北は風光明媚な瀬戸内海国立公園に臨み、東は史跡と展望の五色台を境として高松市と接し、西は聖通寺山を隔てて宇多津町に、南は飯野山、城山などの溶岩台地によって丸亀市と綾川町に接しています。

昭和17年に林田村との合併により市制を施行、その後、昭和26年から同31年までに近隣6カ村との合併で現在の市域を形成し、昭和26年に坂出港が重要港湾に指定され、さらに昭和39年度から48年度の番の州埋立の造成により、臨海工業地帯を擁する港湾工業都市として発展を続けました。

人口：50,624人（令和2年国勢調査）

面積：92.49 km²



坂出市役所にて

2. 調査事項の概要

坂出市では、平成27年度の児童福祉法改正により、放課後児童クラブ対象児童が拡大されたことを受け、施設拡充等に取り組んできたが、指導員等の確保に苦慮するようになった。指導員不足は多くの自治体が抱える問題であり、民間の活力を導入して運営の安定化と質的向上を図ろうと、年々、放課後児童クラブの運営業務を外部に委託する自治体が増加していた。こうしたことを踏まえ、本市においても令和7年度から、同様の理由により、児童クラブを民間委託するにあたり、令和2年度から民間委託している坂出市の現状と課題などを視察した。

3. 主な質疑とその回答

＜令和2年度からの民間委託について＞

問 直営から民間委託に移行した要因は何か。

答 施設拡充等に取り組んできたが、指導員の確保に苦慮するようになった。シルバー人材センターに臨時支援員派遣業務を委託するなど、臨時的措置は講じていたものの、指導員不足解消には至らず、運営そのものを維持することが困難な状態だった。指導員不足を抜本的に解消し、継続可能な運営体制を構築するとともに保育の質の充実を図るため、民間委託の導入に至った。

問 業者は公募型プロポーザルによるものか。また、選定ではどのような点がポイントだったか。

答 公募型プロポーザルで行った。選定ポイントとしては、①受託事業者としての適正、②事業内容③管理運営、④安全対策・危機管理である。



坂出市議会議長のあいさつの様子

問 直営の時の支援員等ほどの程度の人が民間事業者に移行したか。

答 8割程度。2割は自己都合と受入不可。

問 保護者との連絡や児童の入退室はどのようにしていたか。また、スマホのアプリなどは使用していたか。

答 保護者への連絡は、電話連絡で行っていた。保護者からは自社アプリ（LINEのような形態）でも連絡可能。また、入退室は、各教室で教室主任が管理しており、出欠確認は主任から保護者へ電話連絡。

問 民間委託をしてから、安定的な運営になるまでどの程度かかったか。

答 1年程度。

問 民間委託後、保護者の声はどのようなだったか。また、支援員の声はどのようなか。

答 子どもへのフォローがしっかりしている。季節に応じたイベントなどを開催してくれて楽しんでいるなどの声をいただいた。

<令和5年度からの民間委託について>

問 事業者が変わることで不具合が生じたことはあるか。ある場合、どのようなことだったか。

答 あった。前事業者で購入したOA備品（プリンター等）の処分、引き継ぎに時間を要した。

問 事業者が実際にこれを実施してよかったなど、具体的な事例はあるか。

答 同事業所で実施している他地域の放課後児童クラブとのオンライン交流会を本年度の夏季休暇期間に実施した。相手方との特産品紹介やクイズ大会など大いに盛り上がった。

問 児童クラブ運営で、今後業者に改善してもらいたい点はあるか。

答 夏休みの配食サービスの導入。

問 民間委託後の保護者の声はどのよか。また、支援員の声はどのようか。

答 保護者からは、入退室の通知が携帯に届くようになって助かる。支援員が子どもをよく見ている。宿題をきっちり終わらせて帰ってくる。などがあった。また、支援員からは、長期休暇期間の休憩時間や場所の確保など働き方に余裕が生まれた。責任者への報告が迅速になった。トラブル解決までの流れが以前より迅速にできているなどの声があった。

問 児童クラブを民間委託して感じたメリット、デメリットはどのように考えているか。

答 メリットは、欠員などの人員不足対応への迅速化、また保護者対応やトラブル解決などの業務負担が減ったこと。デメリットは、現場の実情が把握し辛いことと、仕様書に規定されていない項目について協議が必要なこと。

放課後児童クラブ ★★★★★★

保護者が就労等で昼間家庭にいない小学生を対象として、放課後に遊びや生活の場を提供します。

仲よし教室・みのり教室

入室を希望する教室にお申し込みください。

仲よし教室 市立小学校9校で開設
(坂出小・栗部小・金山小・西庄小・加茂小・府中小・川津小・松山小)

みのり教室 坂出市児童館で開設
(坂出市有町一丁目3-38 坂出市福祉会館3階)

開設日 月～金曜日(平日) 土曜日(月1回程度)

利用時間

	通常利用	延長利用*
学校授業日	放課後～17:00	放課後～18:00
学校休業日	8:30～17:00	8:00～18:00

利用者負担額 (月額)

	利用期間	通常利用	延長利用*		
年間を通して利用	8月以外の各月	3,000円	4,000円		
	8月	6,000円	7,000円		
長期休業日のみ利用	学年始休業日(4月)	1,500円	2,000円		
	夏季休業日(7月)	1,500円	2,000円		
	夏季休業日(8月)	6,000円	7,000円		
	冬季休業日	1,500円	2,000円		
	学年末休業日(3月)	1,500円	2,000円		

※みのり教室に延長利用はありません。

- 同一世帯から2人以上の子どもが利用する場合は、2人目以降が半額になります。
- 生活保護世帯または市民税非課税世帯のかたは、教育総務課への申請により免除を受けることができます。

★お問い合わせ 坂出市教育委員会教育総務課 Tel 0877-44-5026

その他の放課後児童クラブ

名称	開設	電話番号	市外局番(0877)
学童ふれんどルーム	坂出保育園	45-5528	
ゆうゆうクラブ	みどり保育園	46-4363	
放課後児童クラブ CANVAS	坂出一高幼稚園	83-1076	

★利用について詳しくは各児童クラブにお問い合わせください

さかいで子育て応援BOOKより抜粋

※尚、令和2年4月と令和5年4月の業務委託業者は変更している。

4. 所見・西尾市政への反映に向けた課題

- 坂出市では、令和1年から児童クラブの民間委託が実施されることになり「シダックス」が受託していたが、3年間の契約が終了した後、公募プロポーザルで新たに「明日葉」が受託しているとのことだったため、まさに初めての委託業務に取り組んでいる本市にとっては、貴重な情報収集の機会となった。

民間の募集方法は有料募集サイトだが、経費内のことであり詳細金額は明らかになっていない。諸経費の把握は事業報告書・収支報告書で行うとのことだった。

支援員の経験値を訊ねたところ、教員・保育士などもあるが、数は把握していないとされた。

明日葉のエリアマネージャーは県内での実績があるとのことだった。

シダックスの安定的な運営には1年半かかっている。

シダックスでは、事務所の市内設置がなくマネージャーが巡回だったため、2回目の公募時には、市内への本部設置とエリアマネージャーの配備を求めている、経費の8割が人件費、2割がその他経費とのことだった。

保護者との連絡方法としては、児童毎にICカードによる電子メールでの管理とのことである。本市の「すぐーる」は残せるのだろうか。

事業者研修は18回とのことだが、職種・支援員のレベルによると思われる。加点评価の対

象になる事業なので、積極的にデータを入手するべきと感じた。

市の担当職員は異動している。当初委託時の職員は残っておらず、大幅に変わっているようだが、それでは委託業者を管理できなくなってしまう。本市では少なくとも2回目完了までは異動させずに継続させるべきである。

支援員の賃金については仕様書にうたって、賃金台帳に記載しており、モニタリングは、シフト表・勤務計画で把握しているとのことだった。本市のモニタリングとしては、抜き打ちチェックが妥当と思われる。

支援員からの意見が直接、市に上がってくることはないので、できるだけ現場に出向くようにしており、保護者から市への訴えは業者に連絡して対応しているとのことだが、本市のPFI契約時と同様としては、隔靴搔痒の感がある。支援員へのアンケートを検討すべきと考える。

委託後、坂出市の児童クラブから校舎には入れない。セキュリティ管理のためであるが、今後の課題となるだろうとのことだった。本市でも同様と思われる。



視察中の様子

- ・共働きが当たり前となって来た昨今は、お子さんを児童クラブに預けるご家庭が大変多くなっている。そこで支援員の不足が深刻な問題となっている。その問題を解決するため、視察先の香川県坂出市では、令和2年度から放課後児童クラブを民間企業へ業務委託をしている。本市においても、令和7年度から放課後児童クラブを民間へ業務委託をすることが決定している。先日、事業者の候補先が決まり11月に契約締結され、支援員への説明会と保護者への説明会が行われる。保護者にとっては、民間業者へ委託して我が子は大丈夫だろうか。支援員からしたら、雇用はちゃんと守られるだろうか。不安なことや心配なこともあると思う。視察では、西尾市役所の子育て支援課の担当者も同行してくれた。良いところはしっかりと取り入れ、保護者が安心して預けられ、また支援員の働きやすい環境づくりにも取り組んでいただきたい。

- ・坂出市の民間委託の移行については、指導員の確保困難が要因となった。

シルバー人材センターに臨時支援員の派遣業務を委託するも、指導員不足の解消には至らなかった。

令和5年度に民間委託に切り替え、公募型プロポーザルにより業者選定を行った。

選定のポイントとして、・運営理念、事業の実績・障がい児の受け入れ体制、各機関、保護者、との連携や利用者意見の反映・職員の処遇、人材確保、児童の健康管理、安全対策、施設の意義管理など審査。

業務委託料は3年間で38,991千円とのことであった。

今回の視察では、2事業所での委託業務は指導員確保において、必要なことを感じた。また、民間移行に際し、従来の指導員6割が継続契約をし、4割が年齢を理由に辞退したことは、本市においても、考えられることであり民間委託したから指導員不足が必ずしも解消するとは思わないが、民間のほうが確保しやすいのではないかと考えた。

- ・児童クラブを令和2年度より民間委託して5年目。令和2年度から3年間はシダックスグループに委託し、現在は、本市が委託しようとしている明日葉に変わったとのことで、大変興味を持っていた。しかし、実際に感じたのは、担当職員があまりに実態を知らなさすぎると感じた。委託後の児童の様子や、委託先が変わってからの様子も話がされなかったことは、危惧された。また、研修の回数は話されても、具体内容は説明できないなど、委託したら公的な責任を全く感じられなかった。また、初年度の委託の際に、支援員の継続雇用は8割になり、さらに事業者が変われば6割となったということであったことも、気がかりであった。
- ・民間事業者は豊富なノウハウがあり、多様化する利用者ニーズへの対応や人材確保ができていると感じた。学校と運営内容などの協議を何度も行い、保護者との連絡も電話・自社アプリにおいて綿密に行うなど運営体制の構築もでき、保育の質の充実も図ることができていると感じた。また、支援員に対しては、直営時の指導員が8割移行され、直営に比べ休憩時間や場所の確保で働き方に余裕ができ、トラブル解決も敏速に出来るなど支援員からも好評とのことだった。

本市でも令和7年度から放課後児童クラブの運営業務を民間委託業者へ委託するが、委託後も利用者ニーズを踏まえた保育の資質向上や、待機児童の解消が図れるよう、積極的に取り組んでいく必要があると感じた。

- ・本市においても令和7年4月より、放課後児童クラブの民間事業者への運営委託開始を控え、事業者選定まで漕ぎつけたところである。肝心の運営について、先進事例を学ばせていただいた。

坂出市は、令和2年からは、株式会社シダックスに委託、3年の契約期間を経て、令和5年からは株式会社明日葉へと変更している。そもそも、指導員不足は、どこの自治体でも共通の問題となっており、この指導員不足を抜本的に解消し、継続可能な運営体制を構築するとともに保育の質の充実を図るために民間委託の導入へと移行している自治体が増加しているのが現状である。

指導員不足が、民間委託すれば解決するのか、保育の充実が図られるのか、という根本的な疑問は残るが、目の前の待機児童の増加などには早急な対応を迫られているというのも現状である。

坂出市においては、シルバー人材センターに臨時支援員の派遣常務を委託するなどの臨時措置も講じられたとのことだが、元気いっぱいの小学生の相手がシルバーさんに務まるだろうか、との懸念も湧いてきた。結局、指導員不足に歯止めは効かず、教室の運営そのものを維持することが困難な状況に陥ってしまったという。そこで、公募型プロポーザルにより、業者の選定を行ったが、選定ポイントで目を引いたのが「障がい児の受け入れ体



視察中の様子

制」であったが、まだ事例はないとのことであった。実際、障がい児を受け入れるとなると、看護師配置や指導員の加配など幾つかの課題が生じてくると推察される。

- ・坂出市では、放課後児童クラブの民間委託を令和2年度から始めている。多くの自治体と同様に指導員不足などの課題を抱えていたため、その解消と保育の質の向上を理由に民間委託に移行した。令和5年度からは公募型プロポーザル方式によって株式会社明日葉を選定した。この事業者は今年度に本市を選定した事業者で、委託を開始して7カ月経過しているが、現時点でトラブルや問題はないとのことであった。

民間委託したメリットとして、指導員の欠員などの人員不足対応の迅速化や市職員の業務負担（特に保護者対応やトラブル解決）が削減されたとのこと。デメリットとして、現場実情が把握しづらいことや仕様書に規定されていない項目について協議が必要になることなどがあげられた。これらのデメリットは、児童クラブに限らず民間委託することのデメリットでもあり、想定されるデメリットでもある。故に民間委託するのであれば、十分な検討と準備が必要であると改めて強く感じた。本市において令和7年度からの民間委託となるが、利用者、その保護者及び指導員の立場に立って説明や準備をするべきである。

倉敷市の観光振興プログラムについて

【日時】令和6年10月25日 9時30分～11時

【場所】倉敷市役所

1. 視察地の概要

瀬戸内海沿岸、中国地方の南東部、岡山市の南部に位置する中核市。倉敷川に沿う白壁の町並みは「美観地区」として有名な観光地。大阪市に次ぐ、西日本を代表する工業都市でもあり、製造業出荷額は4兆円に上る。行政と観光の倉敷、コンビナートをもつ水島、学生服・ジーンズのメッカ児島、貿易港と新幹線駅のある玉島などといった地理や歴史の異なる多様な6地区で構成されている。

人口：474,592人（令和2年国勢調査）

面積：355.63 km²



倉敷市議会議場にて

2. 調査事項の概要

言わずと知れた「美観地区」を中心とした観光地として名を馳せる倉敷市である。「美観地区」が形成されたのは、倉敷紡績の大原孫三郎氏が、多くの財産を、文化事業や社会事業に還元。大原美術館をはじめとした、多くの洋風建築が大正から昭和にかけて建てられたのが始まり。戦時中に大原美術館所蔵のモネやエルグレコなど世界的に有名な美術品が所蔵されていることから、戦災にあわず江戸時代から変わらない白壁やなまこ壁の蔵と洋風建築が調和した独特の美しい町並みが保たれ、さらに、この地に住む人々によって景観が守られてきた。

倉敷観光プログラムは、第1期（平成28～令和2年度）に「ひとを惹きつけるまち、倉敷をめざして」と題し、倉敷ファンの獲得でリピーターを増やすことを主な目標に作成されたものの、外国人観光客宿泊者数は、岡山空港の台湾便の増加により目標に近づくものの、入れ込み観光客数、同宿泊者数は目標の7～8割程度であった。

第2期のプログラム（令和3～7年度）は、入込客の横ばい状態、遠距離からの来訪者の少なさ、短い滞在時間、宿泊者の伸び悩みなどの課題を解決し、「稼ぐ力を引き出す取組を推進し、持続可能な観光先進都市を創る」をテーマに作成された。しかし、コロナ禍での影響が色濃く影を落とし、令和5年度の見込みでようやくコロナ前に回復しつつあるとのことであった。

【観光振興に向けた施策展開】

①競争力の高い魅力ある観光地域の形成



倉敷市観光振興プログラム（第2期）

- ・歴史と伝統が息づく「ものづくり」をテーマとした産業観光や、倉敷の料理や食文化を体験できる取組の推進

- ・夜・朝型観光の推進による滞在時間の延長と観光コンテンツの多角化など

②広域観光の推進

- ・広域観光ルートの開発など、圏域観光力の強化
- ・旅行会社や交通事業者等との連携による広域周遊型旅行商品の開発や二次アクセスの改善

③誘致・プロモーション活動の強化

- ・映画やドラマのロケ地の誘致などの推進
- ・オンライン等を活用した観光プロモーションの強化とリピーター化の推進
- ・新たな学習体験プログラムの開発による修学旅行誘致の推進
- ・観光客の傾向や観光消費額などを捉えるマーケティングの実施と、分析に基づいたプロモーション戦略の構築など

④受入環境の充実

- ・Wi-Fi環境整備や回遊性を高める観光インフラ整備の推進
- ・観光客の満足度を高める案内機能の強化
- ・おもてなし人材の育成
- ・安心・安全で持続可能な観光地域づくりの推進など

⑤外国人観光客の誘致拡大

- ・誘客プロモーションの展開と積極的な情報発信
- ・ガイドマップや飲食店のメニューの多言語化など外国人観光客受入態勢の充実など

以上の5つの戦略で施策展開されている。



視察中の様子

3. 主な質疑とその回答

問 観光振興に向けた施策展開の戦略1の中で、倉敷ならではの魅力を生かした着地型商品の開発、歴史的建造物や芸術作品など、質の高い都市景観や文化財を生かした観光資源の開発などをあげているが、それらの詳細はどのようなか。

答 「競争力の高い魅力ある観光地域の形成」で取り組んだ事業について2つ紹介。

1つ目「地域の魅力を活かした夜型観光推進事業費補助金」で、観光客の夕方から早朝の滞在時間の延長、宿泊客数の増加を図るため、ウィズコロナ・ポストコロナにおける観光関連事業者の夜型・朝型観光コンテンツの造成等を支援した。

2つ目「アートでふらっと倉敷」事業では、アートとスイーツを巡る周遊型観光キャンペーンを実施した。倉敷市には美術館やギャラリー等のアート関連施設が多く存在していることから、それを観光資源ととらえて行った事業である。単純にアートという敷居が高くなってしまうので、スイーツと組み合わせることで敷居を下げ、参加しやすくした。

問 観光振興に向けて、市民とボランティア団体などどのような連携や支援をしているか。

答 現在、倉敷市内では、倉敷・玉島・児島・真備の各地区で、延べ6団体の約115名が、国内外からの観光客に向けたボランティアガイドとして活動している。

ガイド活動は、日本語だけでなく、英語や中国語をはじめとした、さまざまな言語で行われており、倉敷の歴史や、町並み保存の取組等、各地区の観光スポットについて、詳しく説明することで、倉敷の持つ魅力の発信に貢献していただいている。

ボランティアガイド活動への支援としては、倉敷観光コンベンションビューローから「ボランティア観光ガイド活動補助金」として、年間で1団体につき30万円を上限に、ガイド事務所の家賃、制服代など活動費用の一部を支援している。

問 外国人観光客の中でも、台湾からの来訪者が多いが、台湾（及び国外）に向けてのプロモーション内容はどのようなか。また、今年度予算額はどのようなか。

答 倉敷市を訪れる外国人で最も多いのが台湾で、約4割を占める。10月27日から岡山空港着の台北便が増便され、1日最大2往復。新たに高雄便が週3便の就航予定。

倉敷市単市の全体の予算は13,762千円で、主要な事業としては、台湾現地での旅行博・イベント参加や外国人の団体旅行を実施した旅行会社に対しての助成金やW i - F i やメニュー翻訳などに対しての補助金等である。

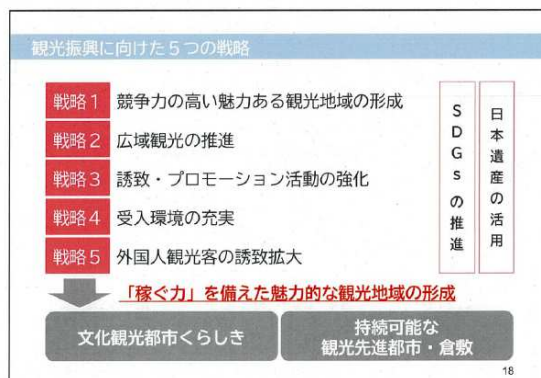
また、それ以外にも岡山市や高梁川流域圏と組み、広域でインフルエンサーを招へいしてPRしてもらうなどの事業を実施している。

問 課題として、「遠方からの来訪者が少ない」を挙げているが、課題を解決するための方策はどのようなか。また、今年度実施している事業があればどのようなものか。

答 遠距離からの来訪者は、一般的に周辺の観光地を組み合わせることで訪れることが多いため、単独で誘客を進めるよりも広域で連携しての誘客が有効であると考えます。

遠方からの誘客促進にはJRとの連携が不可欠であると考え、JR西日本・倉敷市・岡山市とで連携し、倉敷・岡山ぐるりんパス連携協議会を立ち上げている。この協議会では、岡山・倉敷をお得に周遊できる「t a b i w a ぐるりんパス」を販売したり、周遊を促進するために、バスやクルージングの運行に関わる事業補助を行ったりしている。

本市の観光課題	
① 観光入り込み客数	ほぼ横ばい
② 「遠距離」からの来訪者	少ない
③ 来訪者の滞在時間	短い
④ 市内宿泊客数	伸び悩み
⑤ 二次アクセス対策	不十分
⑥ 欧米市場への観光プロモーション	不十分



問 課題として、「来訪者の滞在時間が短い」を挙げているが、課題を解決するための方策はあるのか。また、今年度実施している事業があればどのようなものか。

答 施策としては、朝型観光・夜型観光を促進することで滞在時間を延ばすこと、もしくはスタンプラリー等で観光地の周遊を促す施策が有効と考えている。観光地の周遊を促進する施策として令和6年度は、「ことりっふ 岡山・倉敷まちあるきスタンプラリー」を開催した。これは累計発行部数 1900 万部超の旅行ガイドブック「ことりっふ」と共催することで認知を広げ、さらにスタンプラリーを実施することで周遊を促進し、消費額を高めるための施策となっている。

問 課題として、「市内宿泊者数の伸び悩み」を挙げているが、課題を解決するための方策はあるのか。また、今年度実施している事業があればどのようなものか。

答 夜間景観照明を設置したり、日本夜景遺産への登録を進めたりすることで、夜の倉敷を楽しむ機会を創出している。また、大原美術館では開館前・開館後の時間を利用してモーニングツアーやイブニングツアーを実施している。これは特別解説員が本館の館内を貸切りで案内するツアーとなっており、通常時は静かに鑑賞する必要があるところが、このツアー中は談笑しながら鑑賞することが出来るという特別なものになっている。

問 今年度のフィルムコミッション事業の予算額はどのようなか。また、支援件数はどのようなか。

答 令和6年度予算額：3,156 千円、ロケの受け入れ 12 件となっている。ロケ地としては美観地区が多く、次いで児島でジーンズ関連が多かった。代表的なもので言えば、バナナマンのせっかくグルメ、ZIP、日本郵便CM等。

問 「SDG s 未来都市」に選定されているが、SDG s を推進するための観光事業として、具体的にどのようなものか。

答 岡山県内のSDG s 未来都市（4都市：岡山市、倉敷市、西粟倉村、真庭市）で連携し、アフターコロナ、ウィズコロナにおける新たな観光振興策と、SDG s の取組を体感できる仕組みをリンクさせ、「稼ぐ力」を備え、「人の流れ」をつくり、「SDG s を体感」できる、ローカルSDG s 創出へ向けたSDG s 見える化（体感）ツアー「Sustainable Value Creation Tour」の構築を行い、モニターツアーを実施した。このツアーで体験として取り入れたことは、観光に配慮したジーンズのダメージ加工技術の見学、食品廃棄物の現状と資源化の取組についてリサイクル工場で見学、アウトレット食品店で買い物等。

問 倉敷市の特性を活かした代表的な観光事業はどのようなものがあるのか。

答 倉敷市は倉敷・児島・玉島3市合併をはじめに、庄、茶屋町、船穂、真備との合併によって今の倉敷市の形になった。このようにもともとはバラバラの市町村だったという背景から、今もなお各地区の特色が残っていることが、倉敷市の特性と考える。倉敷地区は美観地区。地元住民と協力し、街並みを保存していくことが一番の観光事業である。児島地区は、国産ジーンズ

発祥の地であり、ジーンズを起点にした観光地の磨き上げを行ってきている。そのほかの地域もそれぞれの特色を生かすことが、倉敷市の観光事業の基本となっている。

問 満足度の高い受入環境づくりについて記載があるが、具体的な内容はどのようなか。

答 お店への支援策として、補助金を出している。「外国人観光客おもてなし促進補助金」という補助金を実施しており、これは外国人観光客向けのメニュー・案内板などを作製する際の費用等に補助金を交付する。この効果として、少しずつではあるが、外国人観光客への対応店が増えてきていると考える。

問 「稼ぐ力」を備えた競争力の高い観光地域づくりについて記載があるが、具体的な事業として、どのようなものが挙げられるか。

答 この事業をすれば稼ぐ力が付くという必殺技のような施策は現状見つかっておらず、「観光振興に向けた5つの戦略」それぞれを着実に実施していくことで、地力を付けつつ、集客をすることで「稼ぐ力」を備えた魅力的な観光地域の形成を図っていくということ実施している。

問 倉敷観光振興プログラム（第2期）を進める上で、現在までの問題点や課題はあるか。

答 本プログラムの目標値として、観光客数と観光消費額をあげているが、今後は観光消費額をメインに置いていきたいと思っている。しかし、観光消費額を調べる手法が難しく、今は県の単価を使っているが、実際はどこをどうすべきなのかが分からないというのが課題に感じている。

4. 所見・西尾市政への反映に向けた課題

・倉敷市のような、観光資源を豊富に持ち、知名度もある市でも、さらに観光をパワーアップさせようとしていることは、自治体の観光施策の展開に脅威に思った。また、観光についても広域連携の必要性を感じる事ができた。連携する協議会を設け「ぐるりんパス連携協議会」で周遊パス販売をし、その補助をしているということだった。名鉄西尾・蒲郡線の存続にも、このような視点で考えることの大切を再認識した。利用したタクシーの運転手さんの美観地区の説明は堂に入っており、また、説明職員が落語を通して地域活動をしている様子などからは、まさに市民ぐるみのおもてなしを感じた。



視察中の様子

・倉敷市は、「美観地区」を中心とした観光地が全国的にも有名であり、モネやエルグレコなどの美術品が所蔵されている大原美術館など、多くの洋風建築が大正から昭和にかけ建設され、今もなお美しい町並みが保たれていた。当然のことながら西尾市と比較することはできないが、近年

ではコロナ禍の影響もあり観光客の減少は大きな課題となった。令和3年に「稼ぐ力を引き出す取り組みを推進し、持続可能な観光先進都市の創造」をテーマに観光振興プログラムを見直し、新たな事業、施策を展開している。「倉敷地区」はボランティア団体と連携を深め、美観地区の保全や外国人向けのガイドの充実など。国産ジーンズ発祥地である「児島地区」はダメージジーンズ加工技術の見学やリサイクル工場の見学、ショッピングなどを展開している。



美観地区

中でも夜間景観照明を設置して「日本夜景遺産」への登録を進めることで夜型観光を創出している。また、誘客・プロモーション活動では、積極的なロケの受け入れ、有名なインフルエンサーを招へいし、SNSを使ってPRするなど、西尾市と規模は違うが、参考にすべきところである。

- ・観光客数がほぼ横ばい・遠距離からの来訪者が少ない及び滞在時間が短い・市内宿泊者数が横ばい・二次アクセス対策が不十分・欧米市場への観光プロモーションが不十分としている。

当市としても人口減少に伴い観光客の減が予測される中、将来に向けた持続的な成長と発展を実現するには、観光交流人口を拡大することで地域経済を活性化していくことが重要であり、このためには、本市の特性や観光振興の意義を十分踏まえつつ、新たな発想で取組を推進していく必要があることと、現在の観光は参加型の傾向が強く、その点をとらえて取り組む必要があると感じた。

- ・視察先の倉敷市は、瀬戸内海に面する人口約48万人の都市である。古くは商人の町、繊維産業の町として栄えていましたが、近年は工業都市、そして今回の視察の目的である、文化観光都市として発展をしている。倉敷市内を6つのエリアにわけ、今回は白壁の建物や柳並木が美しい「倉敷美観地区」などの説明を市役所担当者から受けたあと、現地へ行った。平日にも関わらず観光客、特に若者たちでとても賑わっており、行政としても、とても力を入れているなど強く感じた。本市においては、観光客集客について、素材はたくさんあるのに上手く生かされてない。これが私の率直な意見である。人が集まるまちづくりは、簡単にはいかないし、費用と時間もかかる。倉敷市はとても魅力的なまちであり、参考にすべきところは多かった。本市の担当課へもこの魅力を提言し、良いところはぜひ取り入れていただきたいと思う。訪れた場所は、ほんの一部でしたが、また訪れてみたいまちのひとつとなった。

- ・歴史的町並みでインバウンドでも賑わっている倉敷市美観地区は中国地方の観光地として揺るぎない地位を獲得しているが、リピーター獲得のために持続可能な観光先進都市をめざした第2期計画を策定している。

課題は、遠距離からの来訪者が少なく、滞在時間が平均3.5時間と短いとのことだった。これは、市内宿泊者が伸び悩んでいることから分かる。美観地区が限定的であり、広範囲な回遊に至らない

ものと思われる。

コロナ以前から観光客の激減に悩んでいた熱海市では、このところ、若い女性たちに大人気と聞く。雑誌で紹介されるだけでなく、個人客のSNSやInstagramで「菓子の食べ歩き」が次々とアップされているという。価格も手頃なケーキやプリンとようだが、薄利多売とマッチしていると思われる。これは、本市でも同様に、訪れた観光客自身、また旅行会社に情報発信してもらうような働きかけを検討してはどうかと考える。

観光消費額としての経済効果の測定を行いたい手法がわからないため、現在は県の数値を用いているとのことだったが、本市ではどのようなだろうか。確認していきたい。

合併前の地域、例えば、児島地区では特産のデニムをアピールしたいとのことだったが、テレビの探訪番組での放映を見たことがある。買い物だけでなく、自分用の小物をつくる体験教室だったりピーターとするのは難しそうだ。

真備地区での豪雨災害は記憶に新しい。万一の災害に備え、観光客にも避難場所を認識してもらう対策を検討しているとのことだが、これは、本市としても課題になると思われる。

- ・倉敷市観光振興プログラムを策定し、持続可能な観光先進都市を目指し、戦略的に政策を展開している。特に美観地区は外国人観光客にも人気の観光地である。外国人観光客の中でも台湾からの来訪者が多く、台湾現地での旅行博・イベント参加や外国人の団体旅行を実施した補助金などを実施し、インフルエンサーを招へいしPRする取組などは参考とした。また、積極的に市民と観光ボランティア団体と行政のまちづくりに対する意識の高さを感じた。



副委員長あいさつの様子

当市においても、観光受入れ環境の充実が必要である。市内に宿泊し、滞在していただくための施策が必要であると考え。本市の魅力を発信し、一人でも多くの方が来ていただき滞在していただくよう、通過される市ではなく滞在してもらえる市としての取組を期待する。

- ・「美観地区」で有名な倉敷市であるが、視察当日に市内散策してそれを実感した。通りの両サイドにずらっと続く商店は、若い観光客を意識した店づくりになっており、購買欲を刺激してくる。これでも観光入り込み客数は横ばいで、来訪者の滞在時間が少ない、という課題があるという。そもそも、観光の目玉となる美術館やその他施設が点として存在し、それらをつなぐ路に観るべき景観や店舗が配置されているところは、本市も大いに参考すべきと感じた。残念なことに当市においても観るべき歴史的施設はあるにもかかわらず、それらは点々と存在するのみでそれらを結びつける策が講じられていないのは残念というほかなく、今後の課題として真剣に取り組んでいかなければ、宝の持ち腐れと言われても仕方のない状況である。「着地型旅行商品」の開発に力を入れているとのことだが、ここで当市も参考にすべきという視点について述べたい。いわゆる、その土地にある食材や料理、食文化を経験できる旅行商品の開発は急務であると思う。加えて、「ものづくりの西尾市」としては、産業観光にも注力すべきではないかと思うところである。観光は、いかに滞在時間を延ばせるか、いかに購買意欲をそそるか、ということを実験に研究することが求められる。